

日 時	平成28年 5月24日(火) 13:30～14:45
場 所	東濃高校 会議室
出席者 (敬称略、 委員名は 50音順)	<p>(委員)</p> <p>伊藤 英生 岐阜県議会議員 小原 尚 岐阜県議会議員 各務 眞弓 NPO法人可児市国際交流協会事務局長 鍵谷 欣弘 学校評議員(東海化成工業総務人事課) 嶋崎 友美 東濃高校PTA会長 杉下 隆紀 可児市アーク 事業製作課長(館長代理) 藤井 眞弓 学校評議員(地域代表(主婦)) 二村 文生 御嵩町立向陽中学校長 渡邊 公夫 御嵩町長、東濃高校同窓会長</p> <p>(高校側)</p> <p>平井 学 校長 片山 澄美 教頭 今井 昭弘 教頭 林 博志 事務長 井藤 勝夫 教務主任 吉田 益穂 進路指導主事</p>
議事概要	<p>1 高校の現状と協議会を通じた高校の活性化について</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>卒業式の生徒の落ち着いた様子を目の当たりにして感心した。近年の定員充足は、高校の取組が地域に広く認められた成果であるにとらえてもよいのではないかと。</li> <li>中学校までは数学が苦手だったが、中学校の復習も含めて、高校で懇切丁寧に教えていただけなので、東濃高校に入学して本当によかったという生徒がいる。</li> <li>東濃高校には、将来地元に残り、地元で活躍できる人材を育成してもらいたい。</li> <li>東濃高校の「魅力ある高校づくり推進事業」の柱は、演劇表現ワークショップとキャリア教育プログラムになるのではないかと。</li> </ul> <p>2 演劇表現ワークショップについて</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>4月に行われた第1回演劇表現ワークショップでは、専門家の力を借りて生徒たちの表情が見る見るうちに生き生きとして、年度当初の仲間作りに大きな成果を上げることができた。</li> <li>若い人たちの多くは、コミュニケーションをとることや自分を表現することに大きな苦手意識をもっているように感じる。その点、東濃高校の演劇表現ワークショップは貴重な取組である。</li> </ul>

- ・ 中学校の面接指導で、なぜ東濃高校を受験するのかという問いかけに対しては、丁寧に勉強を教えてもらえるということと、演劇表現を通じて自分を成長させることができるということを答える生徒がほとんどである。
- ・ 演劇表現ワークショップを発展させて、年間通して演劇表現を学べる学校設定科目について検討してもよいのではないか。東濃高校から俳優を目指す生徒が出てきたら応援したい。

### 3 キャリア教育プログラムについて

- ・ 地元企業から指摘いただいた地域課題に対して、生徒たちが解決策を模索し、企業の方に提案するというプログラム（平成25年度開始）をパワーアップできるとよい。
- ・ 生徒たちが地元企業を見学し取材することは、生徒たちが働く楽しさや生きがいを感じ取る大変貴重な機会であり、より一層の拡大・充実を図りたい。

### 4 総合学科への改編について

- ・ 東濃高校は、単位制高校としての特徴を生かして7つの類型をもち、総合学科的なカリキュラムを編成している。多様な科目選択が可能であることが、生徒にとって大きな魅力になっているはずだ。
- ・ 普通科であるが、ビジネス類型(商業)があり、工業類型がある。特に地域づくり類型が魅力的で、郷土の自然や文化など、現場を重視した授業で、御嵩町役場の職員や県職員等が講師となり、校外での授業展開も豊富だという点が大変良い。
- ・ 現在、可茂学区の高校には総合学科がない。東濃高校でより一層生徒の選択幅を拡大し、生徒一人一人の進路希望に対応するためには、「審議まとめ」の方向性のあるように、総合学科に改編することが有効ではないか。

### 5 日本語指導が必要な外国人生徒の支援について

- ・ 外国人生徒にとって日本語の学習は大きな壁となっている。外国人生徒が自信をもって自分の良さを伸ばしていくために、例えば英語だけで授業を行うことも考えてはどうだろうか。
- ・ 日本語と英語の両方ができる生徒は、会社にとって大きな魅力である。外国人生徒には、通訳者を目標にするようアドバイスするとよいのではないか。
- ・ 外国人生徒に日本語教育を行う専門家が必要ではないだろうか。

### 6 積極的な情報発信について

- ・ 「東濃高校はこんな学習ができる学校だよ」ということを、より一層アピールすることに努めることが重要ではないか。
- ・ 昨年度、御嵩町に外務省からの訪問があった際、生徒の活躍は本当に素晴らしかった。生徒が活躍する場を大人が積極的に作ることを心掛け、チャンスをどんどん与えていくことが大切だと思う。学校や行政は、そうした生徒の活躍を大いに情報発信することに努めなければいけない。
- ・ 外国人生徒の弁論大会での活躍が新聞に掲載されて注目した。こうしたことをどんどん積極的に情報発信すれば、東濃高校に進学したいという生徒が増加するに違いない。
- ・ 委員の皆さんに励ましていただいたので、高校は決して遠慮することなく、高校の特色や魅力について、自信をもって、どんどん積極的に情報発信していきたい。